

平成26年度事業報告書

平成26年4月 1日から

平成27年3月31日まで

1 公益目的事業

(1) iichiko 総合文化センター及び県立美術館の管理運営事業

利用者の視点に立ち、大分県の文化振興施策と協調性を保ちながら、県民の幅広いニーズを踏まえた自主文化事業の実施をはじめ、県民の多様な文化活動の支援、地域文化との連携、さらには、国内外で活躍する大分県出身の芸術家の育成と活動支援など、本県文化創造の中核としての役割を積極的に推進することを基本方針として事業を展開した。

さらに、利用者のための円滑な施設運営と良質なサービスの安定的な提供に努めるとともに、指定管理者制度の趣旨に則ってより効果的・効率的な管理運営を行い、経費の縮減を図った。

平成25年10月からは、27年4月に開館する県立美術館を加えた新たな指定管理を大分県から受託しており、開館に向けた規定整備、施設管理契約の締結、展覧会やミュージアムショップ、カフェ等の準備、様々なメディアを利用した情報発信等にも取り組んだ。

ア 管理業務の実施状況に関する事項

(ア) 芸術文化に関する情報収集及び提供に関する業務

新たに広報室を設置し、機関誌、ポスター、テレビ等の広告媒体に加え、SNSなどの情報媒体の活用による効率的、効果的な広報に努めるとともに、他の公立文化施設との連携や大分市中心部における相互広報等にも取り組んだ。

(イ) 総合文化センターに関する個別事項

施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務では、警備や清掃等の業務には、財団の指導監督の下に専門業者へ委託することにより、正確性、安全性等を確保するとともに、大規模改修計画に基づき、県において、音の泉ホールの音響調整卓や出力制御架をはじめとした音響機器の改修工事を行ったほか、小規模な不具合箇所については財団において迅速な修繕業務を実施した。

施設の利用及び利用者の便宜供与に関する業務では、特に大きな

クレーム等はなく、安全対策についても、盗難、事故などの事例は認められなかった。さらに、休館日における臨時開館や利用時間の延長により施設利用者の利便性を高めることができた。

ネーミングライツの運用については、各施設における「iichiko」の愛称使用を徹底し、あらゆる機会を通じてさらなる定着に努めるとともに、パートナーシップ業務として「iichiko」を冠した財団自主事業の実施等を行った。

(ウ) 美術館に関する個別事項

平成 27 年 4 月の開館に向けて、組織体制を強化し、26 年 11 月の建物引き渡し及びその後の施設管理、施設の運用規定の整備等の運営準備などを進めた。また、OPAMフェスタやOPAM誕生祭のイベント開催や新見館長の講演会等、県民に開館を周知するための広報を行った。さらに、県内各地で学校や地域と連携したワークショップやレクチャー等の教育普及事業を実施し、美術に親しむ環境づくりを進めた。その他、所蔵作品の受け入れ、情報システムの整備等を行った。

イ 自主事業の実施状況に関する事項

(ア) 芸術文化ゾーン

出会いと融合による芸術文化創造事業では、平成 27 年 4 月開館の県立美術館を含めた新たな芸術文化ゾーンの創造に向けて、中心部の商店街等と連携して芸術文化ゾーン創造プロジェクトに取り組み、8 月の「タナバタスターライトエクスプレス」や 12 月の「ハートオブクリスマス」の他、芸術文化の拠点づくりに向けたアートイベントを開催した。また、関係団体とのネットワーク構築では、県内公立文化施設、県内公立芸術・文化系博物館、県立芸術文化短期大学、高等学校文化連盟、中学校文化連盟、医療福祉関係団体との連携を図り、上記イベント等への参画を依頼するなど、様々な事業を実施することによりネットワークの構築に努めた。

(イ) 総合文化センター

鑑賞系事業では、他館との初めての共同制作によるオペラ公演に加え、5 回の「ワンコインリレーコンサート」のほか、松竹大歌舞伎、人形浄瑠璃、民族音楽、吹奏楽、室内楽公演、幼児向けミュージカルや音楽公演など質の高い自主企画公演を行った。

創造系事業・普及系事業では、6周年を迎えた iichiko グランシアタ・ジュニアオーケストラの活動の他、ミュージカル体験ワークショップ、文化キャラバン事業、吹奏楽クリニック、中高校生の舞台芸術招待事業などを実施した。

(ウ) 美術館

大分ならではの企画展開催に向けて、国内外の美術館やコレクターと作品借用交渉を継続的に行ったほか、今後の企画立案に向けて、内外の美術館や美術関係者とのネットワークづくりと情報収集を行った。10月には開館記念展等について記者会見を行い、展覧会広報を開始した。

また、館内サービスの充実のため、ミュージアムショップのオリジナル商品やカフェのオリジナルメニューの開発に協力、支援した。

ウ サービス改善提案事業の実施状況に関する事項

大分市、別府市以外の比較的舞台芸術に接する機会の少ない県内在住の子どもたちが、生の公演を体験できるように、劇団四季ファミリーミュージカルや県立美術館開館記念オペラ「オテロ」等9公演に計167名を招待した。

エ 管理施設の利用状況及び目標指標の達成状況に関する事項

(ア) 各施設の利用状況

iichiko グランシアタ（大ホール）の利用件数は228件、利用率は86.7%、iichiko 音の泉ホール（中ホール）利用件数は213件、利用率は81.9%、iichiko アトリウムプラザの利用率は51.5%、会議室の利用率は55.0%、iichiko スペース・ビーの練習室の利用率は88.5%、県民ギャラリーの利用率は73.8%、映像小ホールの利用率は44.3%であった。

(イ) 第3期指定管理に係る目標指標の達成状況

大分県立総合文化センター及び大分県立美術館の管理に関する基本協定書第12条に定められた目標指標の年間ホール利用率87.0%以上に対し、平成26年度の実績は84.3%と目標に届かなかった。

(ウ) ホール入場者実績

iichiko グランシアタは195,637人、iichiko 音の泉ホールは

55,786人、両ホール合わせて251,423人と昨年度(230,067人)を上回った。

(2) 国際交流事業

県民の国際理解や多文化共生意識の醸成、在住外国人に対する支援を図るため、「県民・在住外国人に広く開放された国際交流の拠点づくり」、「在住外国人の生活支援や県民・在住外国人への情報発信」、「国際交流に深く関わりのある団体等への支援」を3本柱として事業を実施した。

ア 県民・在住外国人に広く開放された国際交流の拠点づくり

(ア) 基本的な情報の収集・提供

おおいた国際交流プラザにおいて県民と在住外国人が自由に集い、情報を交換しあえる空間づくりを目指すとともに、人権啓発フェスティバル等に参加することにより、国際化に関する基本的な情報の収集と提供を行った。

(イ) 多文化共生意識の醸成

日本と外国の文化の紹介など多様なプログラムの「おおいた国際フェスタ」を実施して、多文化共生意識の醸成に努めた。

(ウ) 多文化共生の地域づくり

国際経験豊かな講師の話や外国人講師による国際理解講座の開催により、多文化共生概念の地域社会への普及に努めた。

イ 在住外国人の生活支援や県民・在住外国人への情報発信

(ア) 在住外国人の生活支援

居住、子育て、離婚、在留資格等で悩みを抱えている在住外国人を対象とする生活相談及び在住外国人支援のための登録ボランティアの拡充とスキルアップ研修を実施した。

(イ) コミュニケーション支援

ホームページの運営や機関誌の発行、SNSの活用による情報発信に加え、ボランティアを活用した通訳・翻訳のコーディネートを行うなど、県民と在住外国人相互のコミュニケーションを促進した。

ウ 国際交流に深く関わりのある団体等への支援

(ア) 他機関との連携・支援

日本語教室の運営や海外との文化・スポーツの交流活動を行う国際交流団体を支援するとともに、在住外国人を支援する各種団体との連携を図った。

(イ) 国際人材の育成推進

コーディネーターの配置や相互訪問のマッチングにより、青少年の交流を進め、異文化体験を通じた生徒・児童の国際相互理解を深める団体や行政機関との連携に努めた。

(3) スポーツの振興

ア 地域のスポーツ振興

スポーツ振興事業基金を財団内に設置し、「総合型地域スポーツクラブ」等の13のスポーツ団体に対して助成を行った。

イ (株)大分フットボールクラブへの貸付金管理

平成17年9月に大分トリニータを運営する(株)大分フットボールクラブへ貸付けた2億円については、平成25年3月をもって償還が完了した。また、平成22年11月に融資された2億円についても、平成24年から遅滞なく償還が行われた。毎月の経営状況の報告を受けるなど情報の把握に努めるとともに、県と連携して滞りなく返済されるように貸付金の管理を行った。

2 収益事業等

(1) iichiko 総合文化センター駐車場の管理運営事業

指定管理者として事故なく、安全・安心に駐車場を利用できるよう、常駐警備員を配置するなどして、適切な管理運営を行った。

駐車場の入庫台数は246,182台と昨年度実績248,135台を若干下回ったが、利用料収入は昨年度実績を上回った。

(2) 友の会事業

iichiko 総合文化センターの友の会「emo 倶楽部」を発展的に解消し、大分県立美術館と iichiko 総合文化センターを中心に、大分県内の芸術文化に広く親しみ、参加し、楽しんでもらう会員組織「大分県芸術文化友の会：びび」を県と共同で立ち上げ、会員拡大に取り組んだ。会員に対しメルマガや会報誌などを通じて様々な情報提供を行うとともに、チケットの先行販売や割引サービス、各種文化イベントの開催などのサービス提供を行った。